きょうだいのお話

一般社団法人栃木県手をつなぐ育成会
会長　　小島　幸子

　いつも栃木県の育成会を応援いただきありがとうございます
あんなに暑かった夏も終わり、もう今年も終わりが近づいて来ました。月日が経つのはなんと早いのでしょうか
　今日は、我が家のきょうだいのお話です。このホームページに訪問していただく方の中には、障害のある人のきょうだいもおられることでしょう。親にとっては、障害があってもなくても同じくかけがえのないわが子でありますが、家族に障害児がいるとそのお世話に多くの時間をとられ、他のきょうだいと向き合う時間が削られることもあると思います。最近では「ヤングケアラー」と呼ばれ家族だけで抱え込まず、社会全体で支えていきましょうという流れになって来ています
　我が家は二人兄弟で、長男に障害がありますが次男は引きこもり状態にあります
確かに幼児の頃、多動な長男を追いかけ、次男を待たせてしまうことが多かったと思います
「私の子育てがうまく出来なかったからだろうか？」と私は自分をずいぶん責めて、次男の同級生のお母さんたちとも距離を置いていましたし、次男のことを親しい友達に話すのにも長い時間を費やしました。そんなことを率直に次男に伝えたことがあります。その時次男は「いや、これは俺自身の問題だから。お母さんや良ちゃんとは関係ないから」と言いました
　市役所に、地域生活支援拠点の立ち上げの頃からの長いお付き合いの相談支援専門員がいます。
次男のことを相談し始めたのは数年前からでした
県のひきこもりサポートセンターも交えての定期的な面談を何回も行って来ました。
少人数ですが、当事者の集まりもありました
障害福祉もそうですが、引きこもりの問題も個別性が高く、なかなかいい方法がありません。そうこうしているうちに月日は、あっという間に過ぎていきます
「生きていてくれるだけでいいのではないか？」という思いもあります
しかし、親も定年退職して長男以上に次男の親の支援なき後の暮らしの不安が募ります
なんかいい策がないか？と考えました。そういえば昨年１月に、はやり病の罹患をきっかけに訪問診療の医師（長男が病院に通うことが難しく、６年前から来ていただいています）が来る日は、必ず医師と話をしている！看護師にバイタルを測ってもらっている。この日に市役所の担当者に家に来てもらったらいいのでは？
とひらめきました。次男に話したところ同意しました。めでたく過日、実現しました
一番嬉しかったのは、おそらく担当者だったと思います
次男も生まれて初めて名刺をもらったと言っていました。まんざらでもなさそうです
医師と看護師には事前説明しなかったけど、すぐに状況は、理解されたようです。さすがです。
　人が人を繋ぎ、人に助けられる。どうなるかわからないけど、確実な１歩です